

昨今のスクラップ相場について

2021年2月3日 草野産業株式会社

1

■目次：

* スクラップ相場急騰要因	P 3～15
①中国粗鋼生産回復・高水準稼動	(P 4～ 8)
②中国輸入スクラップ解禁予測 & 日本国内粗鋼生産量回復	(P 9～13)
③先物取引市場への投機資金流入	(P14～15)
 * 足元のスクラップ相場について	 P16～18
 * 今後の見通しについて	 P 19～20

2

■スクラップ相場急騰要因 (期間：2020年7月初旬～12月末)

①中国粗鋼生産回復・高水準稼動

②中国輸入スクラップ解禁予測 & 日本国内粗鋼生産量回復

③先物取引市場への投機資金流入

3

■スクラップ相場急騰要因

(期間：2020年7月初旬～12月末)

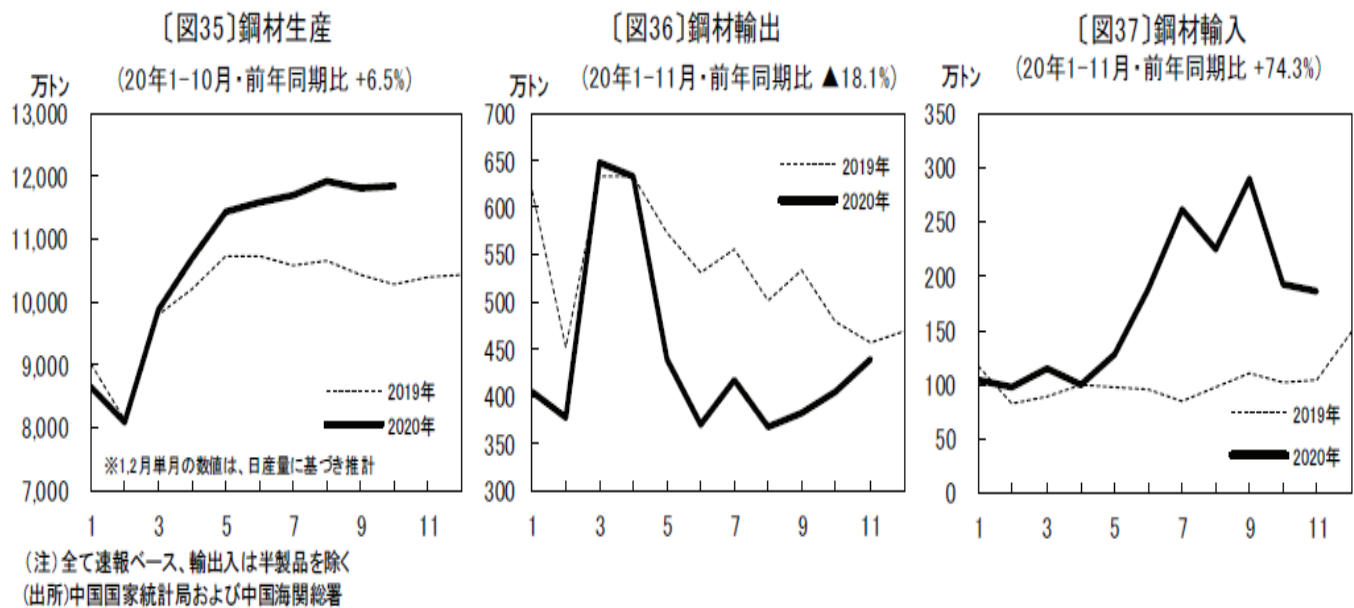
①中国粗鋼生産回復・高水準稼動

②中国輸入スクラップ解禁予測 & 日本国内粗鋼生産量回復

③先物取引市場への投機資金流入

4

2020年1-11月 中国：鋼材生産／輸出／輸入 推移



5

<鋼材生産>

コロナ禍から世界一早く回復、3月を境に生産量急増

<鋼材輸出>

中国政府の大規模な経済政策により国内需要急増、4月以降急減

<鋼材輸入>

需要が供給を上回る回復、4月以降近隣諸国より半製品輸入量増



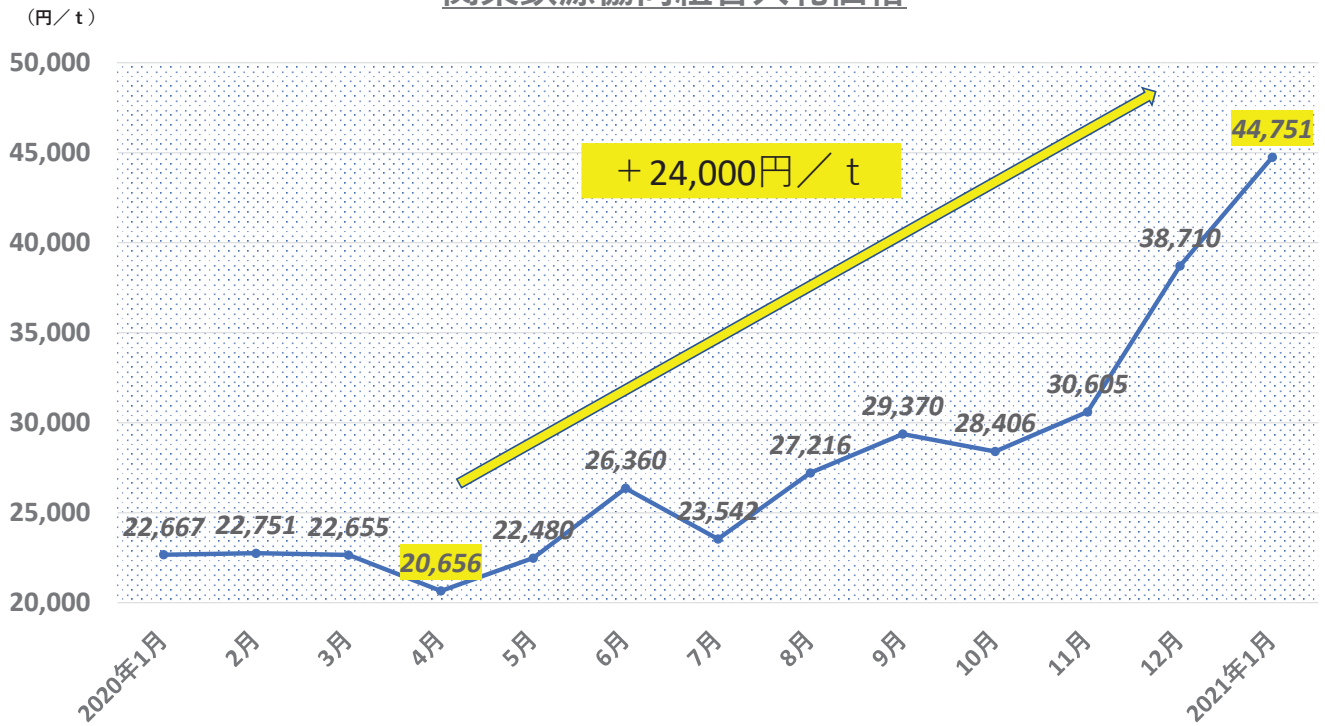
近隣諸国（ベトナム・バングラディッシュなど）が中国向け半製品生産増



スクラップ需要増＝スクラップ価格高騰

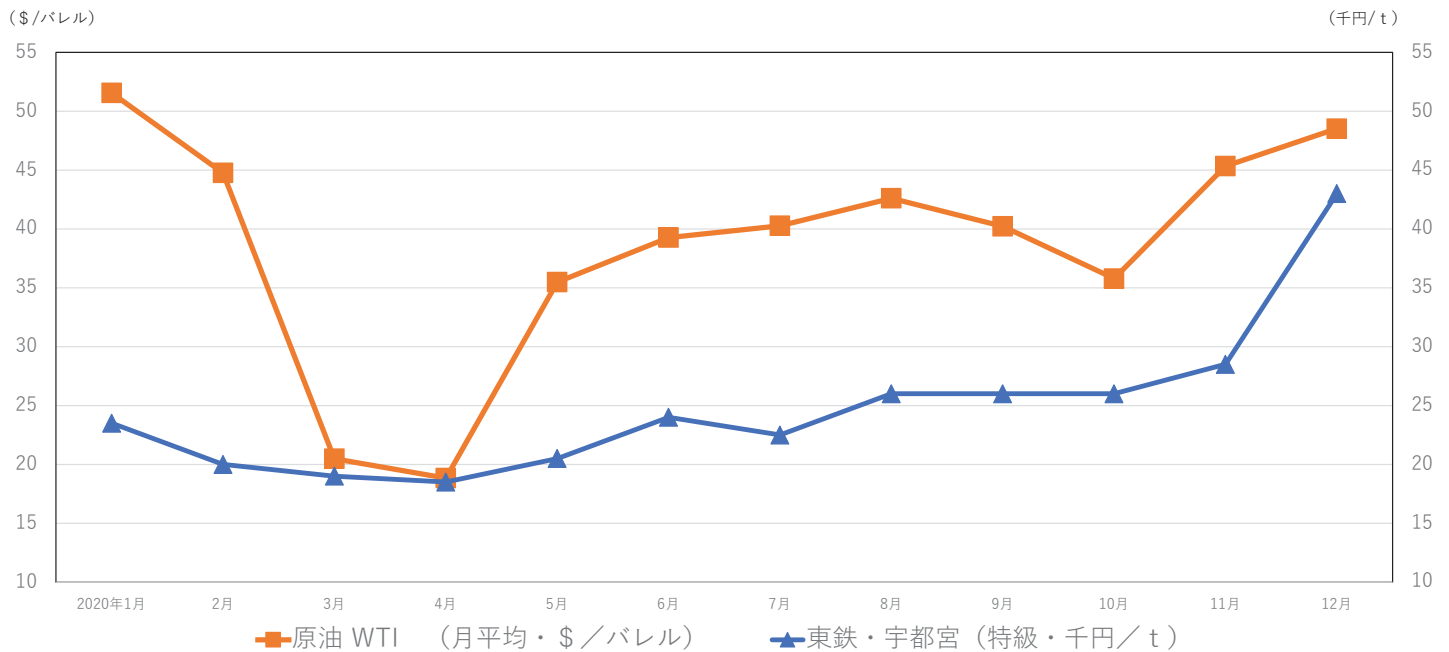
6

関東鉄源協同組合入札価格



7

原油WTI価格・東鉄宇都宮（特級）価格



8

■スクラップ相場急騰要因

(期間：2020年7月初旬～12月末)

①中国粗鋼生産回復・高水準稼動

②中国輸入スクラップ解禁予測 & 日本国内粗鋼生産量回復

③先物取引市場への投機資金流入

9

- ・ここ数年、中国が鉄スクラップ輸入再開となる話が浮上し、立ち消えるといった状況が続いていた。
- ・2021年には以下3点から輸入再開となる予測が高まっていた。
 - 1) 原燃料（鉄鉱石・原料炭）価格の高騰
 - 2) 製鉄業におけるCO₂排出削減
 - 3) 中国国内鉄スクラップ価格が国際相場と比較し高値水準
- ・国内スクラップ業者は先高期待より出荷抑制、在庫積増し



※中国政府／12月31日

「2021年1月1日より、鉄スクラップ輸入解禁」 発表

10

- ・ 輸入品には不純物（ダスト等）含有率を厳しく設定
- ・ 検査基準が不透明の中、当面は上級屑（厚板・新断）主体となることが予測
- ・ 鋳造用原材料（上級屑）に影響及ぼす可能性あり

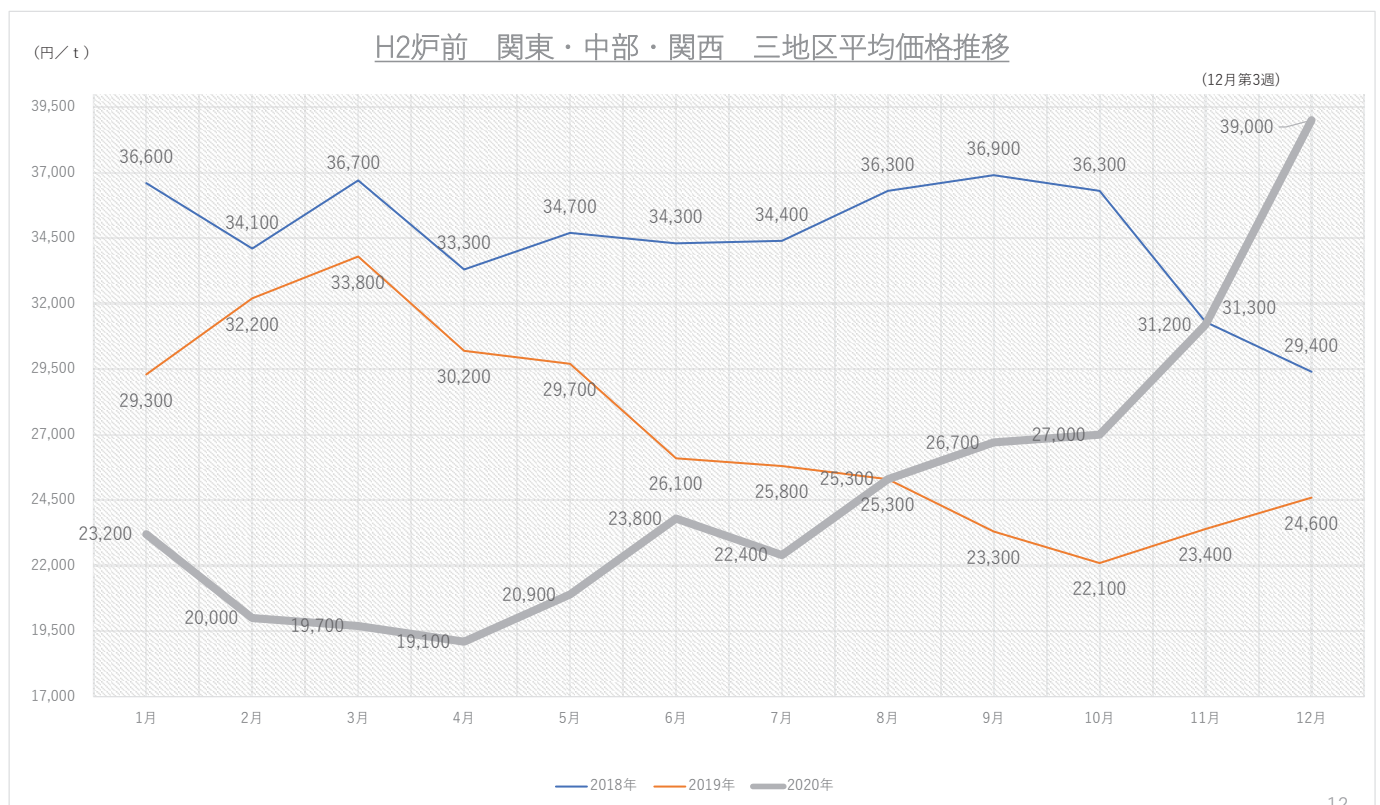
「可鍛コロ／配合材」母材



「新断バラ／シュレッター」母材

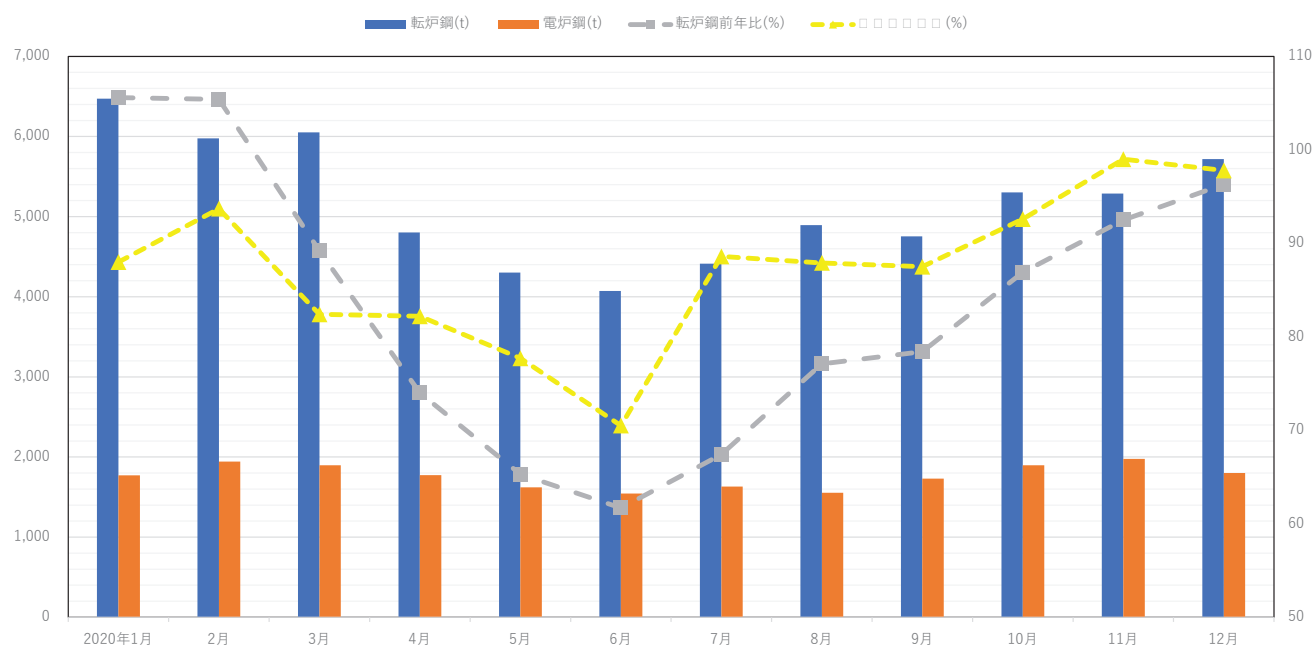


11



12

2020年国内炉別粗鋼生産量



13

■スクラップ相場急騰要因

(期間：2020年7月初旬～12月末)

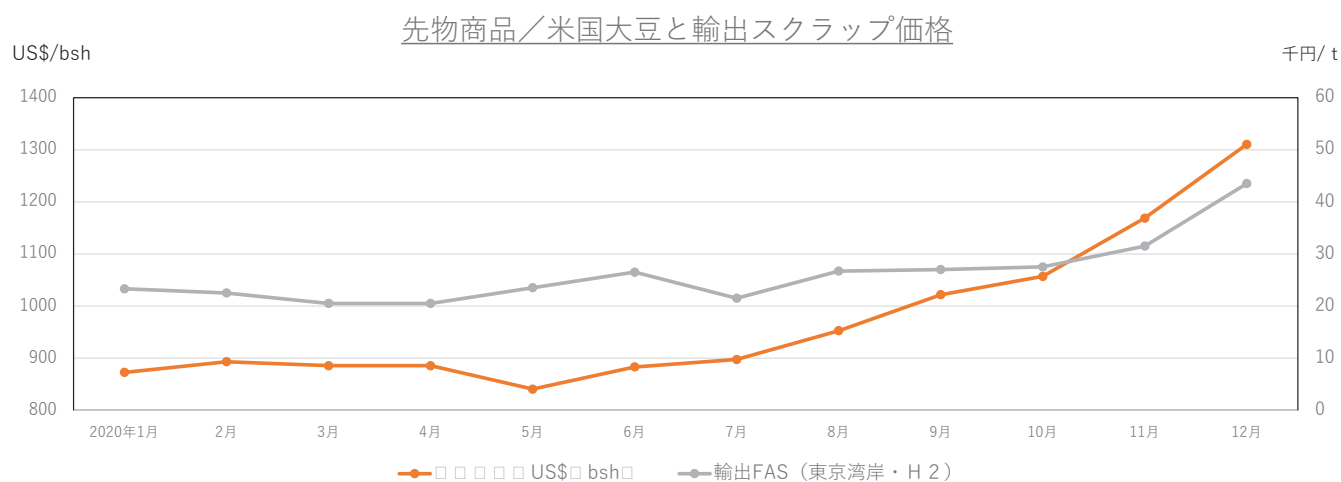
①中国粗鋼生産回復・高水準稼動

②中国輸入スクラップ解禁予測&日本国内粗鋼生産量回復

③先物取引市場への投機資金流入

14

- * 各国政府が財政支出を行い経済の下支えしている。
- * 世界中で低金利での資金が市場に流通している為、株式投資同様に鉄スクラップ市場へ資金が流れていることも影響している。
- * 下記は先物商品／米国大豆と輸出スクラップの価格推移比較表。

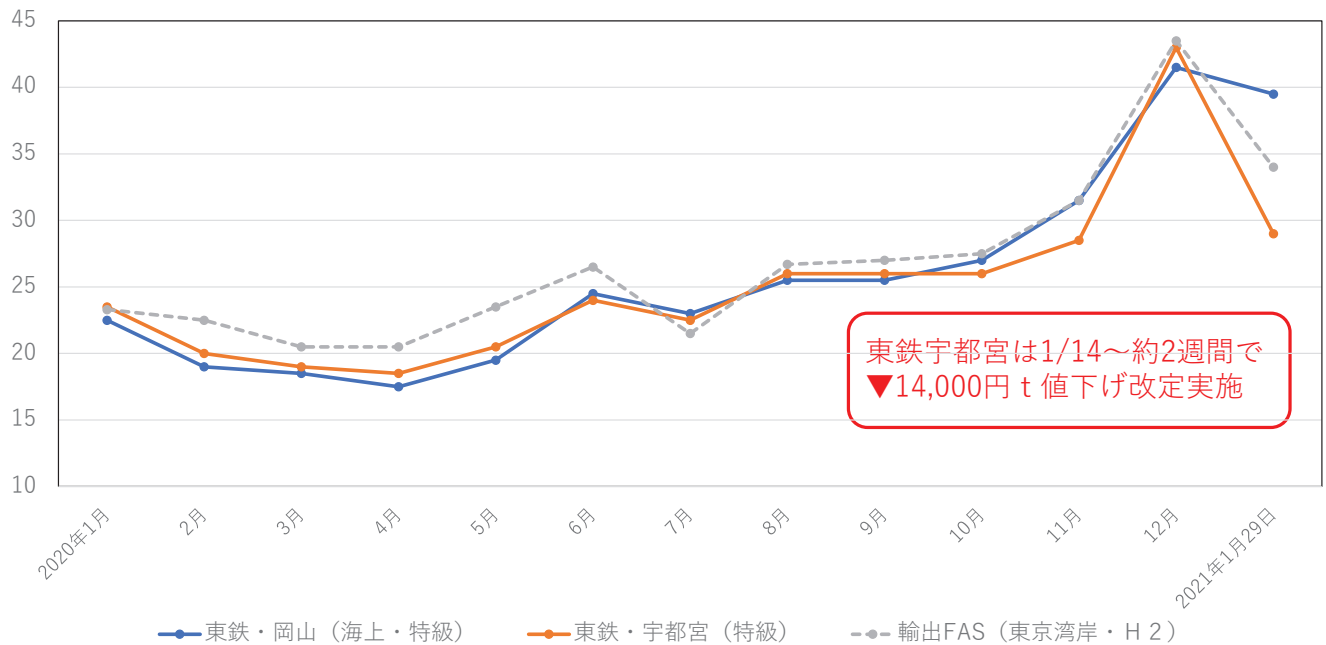


15

■ 足元のスクラップ相場について

東京製鐵（宇都宮・岡山）特級価格と輸出FAS価格推移

単位：千円/t



17

- ・今年1月、輸出相場が鋼材価格以上の値上がりに至り調整局面へ変化、上げ急騰の反動で下げも急落となっている。
- ・関東地区相場は輸出相場下落に加え、輸出向けバルク船手当難航から、各ディーラーヤード在庫過多に陥り荷止め実施。
- ・国内電炉メーカーへ納入集中も東京電力からの電力制限要請が入り、操業調整実施。
- ・スクラップの出荷先が細り、荷余り感が発生。
- ・関東地区より西送り配船が増加。
- ・関東地区以外も入荷増に繋がり、価格調整が入る見込み。

18

■今後の見通しについて

19

- ・中国の旧正月前までは弱含み基調にて推移見通し。
 - ・スクラップ相場の底は現時点で見てなく、更に下がる可能性は十分に考えられる。
 - ・アジア地区内の半製品及び製鋼用鉄価格はスクラップ価格と連動してなく、下げ幅は小さく推移。
 - ・需要自体はあるため、旧正月明け（2/20頃）以降の商談次第。
 - ・中国輸入スクラップ手当状況で価格が大きく変動することが予想される。動向には注視していく必要がある。
 - ・ casting 用原材料への影響は価格以外に母材確保にも及ぶと危惧される。
- その他、日本国内状況から鑑みた場合、
- 自動車ハイテン化の更なる加速＝低Mn屑発生減（EV化で急速に進む）
 - 造船業界建造量減＝可鍛コロ／配合母材の発生減
- が予測され、今後良質な鉄スクラップ確保はより一層厳しくなる見通し。

20

ご清聴ありがとうございました！！